

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平7-40666

(43) 公開日 平成7年(1995)7月21日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 6 B 13/30

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

J 7633-3F

審査請求 未請求 請求項の数 1 OL (全 3 頁)

(21) 出願番号 実開平5-70515

(22) 出願日 平成5年(1993)12月28日

(71) 出願人 591020353

オーチス エレベータ カンパニー

OTIS ELEVATOR COMPANY

アメリカ合衆国, コネチカット, ファーミントン, ファーム スプリングス 10

(72) 考案者 鈴木 邦久

千葉県山武郡芝山町小池字水口2700-1

日本オーチス・エレベータ株式会社 芝山工場内

(74) 代理人 弁理士 志賀 富士弥 (外1名)

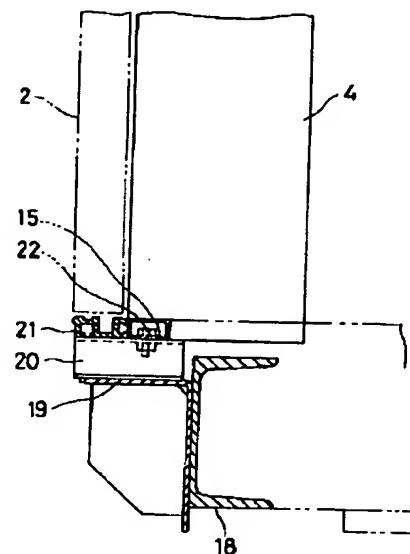
最終頁に続く

(54) 【考案の名称】 エレベーターの乗場側出入口における側柱

(57) 【要約】

【構成】 エレベーターの乗場側出入口1に立設された一対の側柱4, 5であって、この側柱4, 5の底面側に設けられた固定片15と、ガラス23が取り付けられる係合凹部13とを備え、前記固定片15を乗場側出入口1のブラケット20に固定することによってこの側柱4, 5自体を自立させるようにした

【効果】 ガラス23を立てた状態で支持でき、乗場側の美麗化を図ることができる。



- 1 ... 出入口
- 2, 3 ... ドア
- 4, 5 ... 側柱
- 15 ... 固定片
- 22 ... ボルト

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 エレベーターの乗場側出入口に立設された一対の側柱であって、この側柱の底面側に設けられた固定片と、板状壁材が取り付けられる取り付け部とを備え、前記固定片を乗場側出入口の基礎部に固定することによってこの側柱自体を自立させるようにしたことを特徴とするエレベーターの乗場側出入口における側柱。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に係るエレベーターの乗場側出入口における側柱の一実施例を示す断面図

【図2】 この側柱が用いられた乗場側出入口の正面図

【図3】 この側柱が用いられた乗場側出入口の断面図

* 【図4】 この側柱が用いられた乗場側出入口の平面図

【図5】 この側柱の正面図

【図6】 図5中B-B線断面図

【図7】 図5中C-C線断面図

【図8】 従来の乗場側出入口の正面図

【図9】 図8中A-A線断面図

【符号の説明】

1…出入口

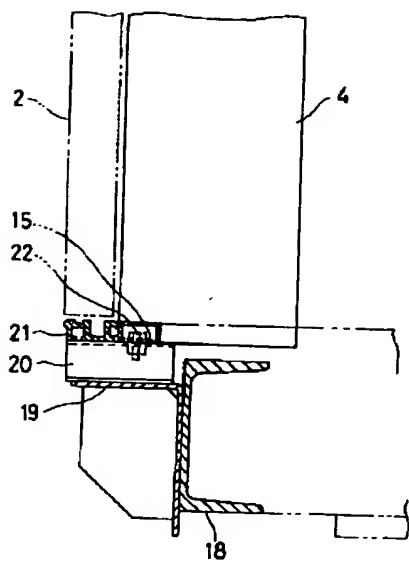
2, 3…ドア

4, 5…側柱

15…固定片

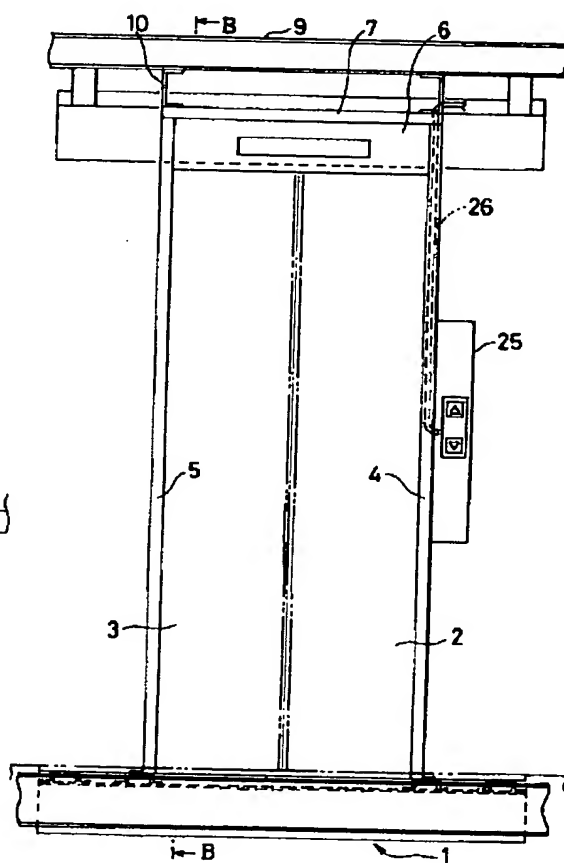
22…ボルト

【図1】

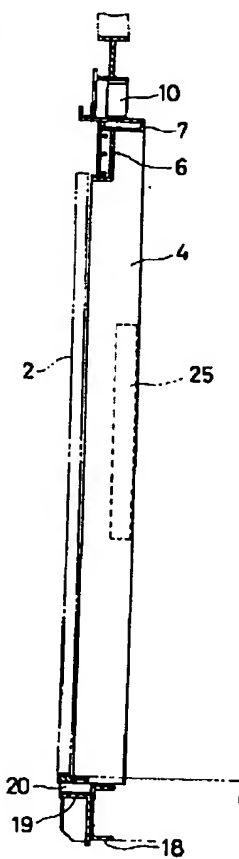


1…出入口
2, 3…ドア
4, 5…側柱
15…固定片
22…ボルト

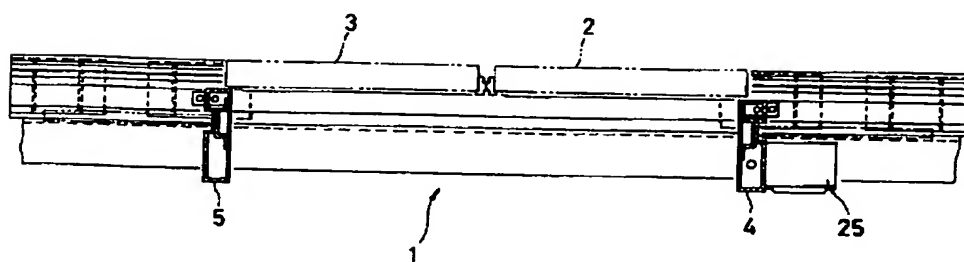
【図2】



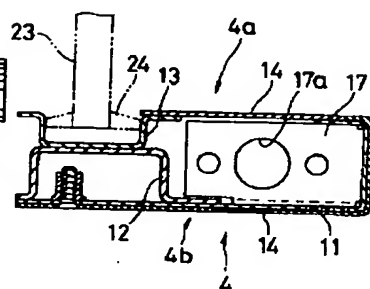
【図3】



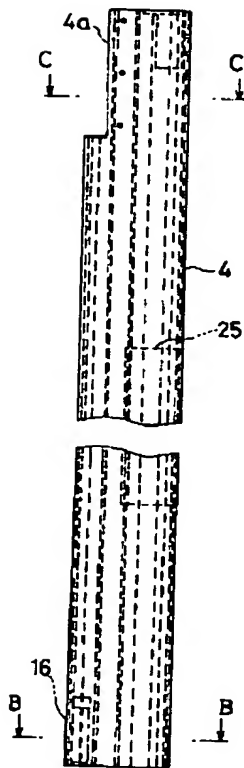
【図4】



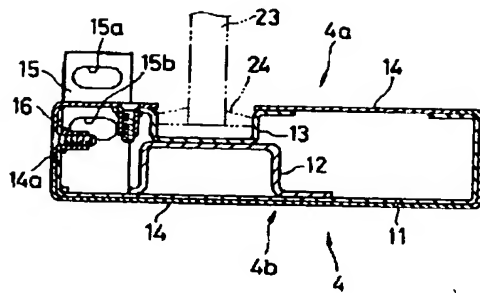
【図7】



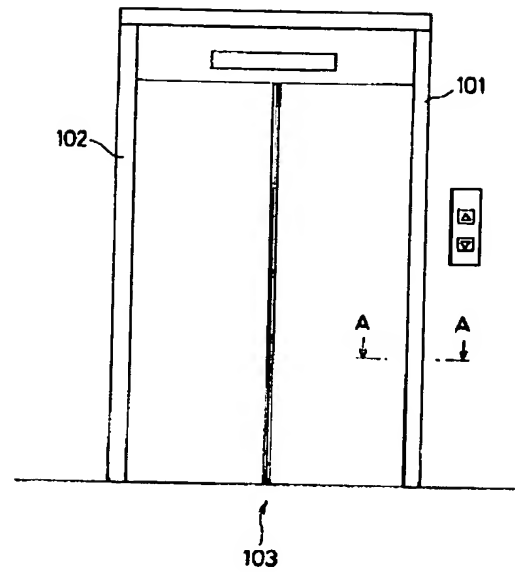
【図5】



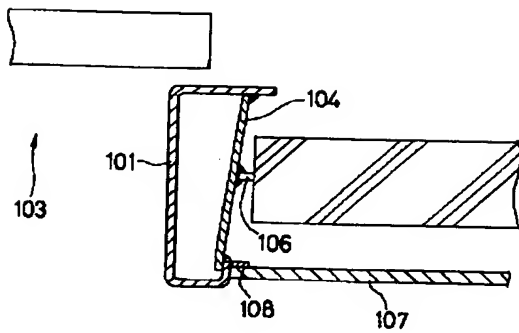
【図6】



【図8】



【図9】



フロントページの続き

(72) 考案者 塚田 典彦
 千葉県山武郡芝山町小池字水口2700-1
 日本オーチス・エレベータ株式会社 芝山
 工場内

【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、エレベーターの乗場側出入口の両側に立設された側柱に関する。

【0002】**【従来の技術】**

従来のエレベーターの乗場側出入口として、例えば図8および図9に示すようなものがある。図8において、符号101、102は出入口103の両側に立設された一対の側柱である。図9に示すように、側柱101は補助パネル104に設けられ、この補助パネル104は鉄筋コンクリートの壁105から突出した鉄筋106に溶接されている。また、側柱101には化粧パネル107がコーキング剤108によって取り付けられている。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

ところで、最近では美観上の観点から出入口103の両側に設けられる壁として、透明なガラス製の板状壁体にしたいという要望が出ている。ガラス製の板状壁体等は乗場の基礎に自立させられないので、側柱101に係合させて立設させることになる。しかし、従来の側柱101はそのもの自体が自立していないので、ガラス製の板状壁体は立設させることができないという問題点があった。

【0004】

本考案は、板状壁体を立設させることができるようにしたエレベーターの乗場側出入口における側柱を提供することを目的とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

このような目的を達成するために、本考案にあっては、エレベーターの乗場側出入口に立設された一対の側柱であって、この側柱の底面側に設けられた固定片と、板状壁材が取り付けられる取り付け部とを備え、前記固定片を乗場側出入口の基礎部に固定することによってこの側柱自体を自立させるようにした構成とする。

【0006】**【作用】**

側柱を出入口に立設するには、この側柱を基礎部の上に立て、固定片の長孔にボルトを挿通させ、この固定片を基礎部に固定する。

【0007】

このようにして、側柱は基礎部に自立した状態で立設される。自立した側柱の取り付け部には、ガラスの端部が入れられ、このガラスをコーキング剤等によって取り付け部に固定する。側柱は前記したように自立しているので、ガラスは側柱によって立設した状態で支持される。

【0008】**【実施例】**

以下、本考案を図面に基づいて説明する。図1ないし図7は本考案に係るエレベーターの乗場側出入口における側柱の一実施例を示す図である。

【0009】

図2ないし図4において、符号1はエレベーターの乗場側出入口であり、この出入口1にはドア2、3が開閉自在に配設されている。また、出入口1の両側には、一対の側柱4、5が立設され、側柱4、5の上部間には幕板6、ヘッドジャム7が架設されている。幕板6、ヘッドジャム7は上方に配設されたヘッドビーム9にC型钢10を介して溶接されている。

【0010】

図5に示すように、側柱4は細長い形状をしており、この下端は立設しやすいように水平端面形状となっている。側柱4の上端側には切欠部4aが形成され、この切欠部4aに幕板6が取り付けられ、この上にヘッドジャム7が取り付けられている。

【0011】

また、側柱4は図6および図7に示すように、従来のようにパネル状ではなく、全体が略角パイプ状となっている。すなわち、断面略Cの字型をした鋼板製の野地板11の内側には、断面略ハット型をした鋼板製のブラケット12が溶接されており、このブラケット12には断面略ハット型をした鋼板製のブラケット1

3が溶接されている。また、野地板11の外側には鋼板製の外装板14が溶接されている。外装板14はブラケット13の上には設けられておらず、このブラケット13が板状部材に係合させるための係合凹部13（取り付け部）となっている。

【0012】

外装板14および野地板11の下端には、矩形状をした鋼板製の固定片15が溶接され、この固定片15には2個の長孔15a, 15bが形成されている。長孔15a, 15bにはボルトを通してこれを締め付け、固定片15をブラケット20（基礎部）に固定するものである。外装板14および野地板11における固定片15の近傍には、開口部14aが形成され、この開口部14aは閉止片16によって通常は閉止されている。

【0013】

外装板14および野地板11の上端には、鋼板製の取付片17が溶接され、この取付片17にはヘッドジャム7をビス等で固定する。なお、取付片17にはコードを通すための挿通孔17aが形成されている。

【0014】

ところで、側柱4に並設される壁は従来と異なり、合わせガラス23という板状壁材なので、この側柱4の裏側4aも乗客に見えることとなる。しかし、この側柱4の裏側4aにも外装板14が取り付けられているので、この裏側4aも表側4bと同様に美麗となっている。

【0015】

一方、図1に示すように、乗場側の出入口1の下方にはC型钢18が配設され、このC型钢18には断面略逆L字型のブラケット19が溶接されている。ブラケット19の上には断面略ハット型のシル受けブラケット20が溶接され、このシル受けブラケット20にはドア2の開閉を案内するためのシル21が設けられている。

【0016】

側柱4を出入口1に立設するには、この側柱4をブラケット20の上に立て、この開口部14aを開けてこの開口部14aから固定片15の長孔15a, 15

bにボルト22を挿通させ、この固定片15をシル受けブラケット20に固定する。

【0017】

このようにして、側柱4はシル受けブラケット20の上に自立した状態で立設される。自立した側柱4の係合凹部13には合わせガラス23の端部が入れられ、この合わせガラス23をコーキング剤24によって係合凹部13に固定する。側柱4は前記したように自立しているので、合わせガラス23は側柱4によって立設した状態で支持される。

【0018】

なお、側柱4の方には操作ボックス25が設けられているが、この側柱4が略角パイプ状となっているので、このコード26は側柱4内を通すことができ、乗客の目に触れることはない。

【0019】

【考案の効果】

以上説明したように、本考案によれば、固定片を乗場側出入口の基礎部に固定することによってこの側柱自体を自立させるようにしたので、ガラス等の板状壁体を立てた状態で支持でき、乗場側の美麗化を図ることができる。